

千葉県立中央博物館 分館海の博物館ニュースレター

いそっぴ通信 **no.5**

(平成15年度版)

The Newsletter of the Coastal Branch of Natural History Museum and Institute, Chiba
No. 5 (1 April 2003—31 March 2004)



千葉県立中央博物館 分館海の博物館

ようこそ海の博物館へ！

平成11年3月にオープンした千葉県立中央博物館 分館海の博物館は、今年度末をもって丸5年、さまざまな活動をとおしてみなさまに房総半島を中心とした海の生きものたちを紹介してきました。しかし、自然豊かな房総半島の海に暮らす生きもの全貌を把握するには、さらなる調査が必要であると感じています。博物館で働く私たちスタッフも毎年新たな生きものとの出会いに驚きながら活動を続けているからです。

本誌「いそび通信」は、年度ごとに海の博物館の活動やできごとをまとめたニュースレターです。今年度の大きなできごとといえば、平成15年7月に当館入館者が100万人に達成したことです。また、平成16年1月には、近所の漁師さんから大型のサメの一種、マオナガの標本提供がありました。他にも、海の博物館ではさまざまな“動き”がありました。本誌をとおしてそれらを知っていただき、海の博物館へより一層の興味を持っていただければ嬉しく思います。

もくじ

平成15年度のトピックス	1
入館者100万人達成！	1
平成15年度マリンサイエンスギャラリー	2
ロビー案内板を新調	4
貝殻標本の受け入れ	4
エチゼンクラゲ、房総の海を襲う！	4
平成15年度の活動記録	5
1. 展示活動	5
2. 教育普及活動	9
3. 資料収集活動	14
4. 調査研究活動	16
事務室より	18
平成16年度の行事予定	20
職員から	

表紙の解説：マオナガ *Alopias vulpinus* の頭部

マオナガは、オナガザメ科に属するサメの一種で、大きなものでは全長6mにもなります。平成16年1月、勝浦沖で全長約2mのマオナガが捕獲され、海の博物館に提供されました。

平成15年度のトピックス

入館者100万人達成！



入館者100万人目の藤塚信男さんご一家



堀江分館長から記念品が贈呈されました

平成11年3月12日に開館してから、約4年と4ヶ月たった平成15年7月5日に、海の博物館は、入館者100万人目をお迎えすることができました。県立博物館としては、現代産業科学館に次ぐ、2番目のスピード記録です。100万人目となったのは、勝浦市のお隣、天津小湊町からいらした藤塚信男さんご夫婦とお子さん3名の一家5名。ドライブの途中で立ち寄られたとのことで、分館長から記念品を贈呈され、びっくりされながらも嬉しそうなおようすでした。長男の孔史郎くん（8歳）は、「記念に日記に書きたいです。」とのコメント。日記に書いてくれましたか？なお、この模様は翌日の各新聞紙上でも紹介されました。

平成15年度マリンサイエンスギャラリー

子育てする魚 – 自分の子どもを残すための巧みな工夫–

平成15年11月1日～平成16年1月7日



「子育て」と聞くと、われわれの身近な例として、イヌやネコが子どもに乳を与えたり、スズメが卵を抱いてヒナにエサを運ぶようすが思い浮かぶかもしれませんが。魚たちも例外ではありません。それぞれの生活環境に適応した、さまざまな子育てが見られます。今年度のマリンサイエンスギャラリーでは、そんな魚たちの子育てを映像や標本を用いて紹介しました。

最初のコーナー「子育てとは」では魚の話に入る前に、子育てにはどんなことが含まれるか定義づけをしました。ハチ、カニ、タコ、タニシなどの子育てを写真や標本で紹介しましたが、タヌキの親子の剥製が可愛いと大人気でした。

次に「子育てする魚としない魚」では、子育ての方法が大きく3つのタイプに分けられることを紹介しました。また、水槽の中に8種類の魚を入れて、どの魚がどんな子育てをするかというクイズを設けました（写真右中）。

親が自分の周りにいる子どもを保護する「子どもを見守る魚」では、スズメダイやカワハギなどさまざまな魚を写真や標本で紹介しましたが、マハゼの巣穴の実物大模型（写真右下）が最も注目を浴びました。これはマハゼが海底に掘った巣穴の中に特殊な



樹脂を流し込み、それを掘り起こして作成したものです。小さな魚がこんなに大きな巣穴を掘り、その中で子育てすることに驚かれた方が多かったようです。

親が自分の子どもを抱きかかえて保護をする「子どもを抱きかかえる魚」では、育児嚢や口の中で子育てをするタツノオトシゴやテンジクダイの仲間を紹介しました。意外な場所での子育てに感心される方もいらっしゃいました。

親が妊娠してお腹の中で子育てする「子どもを妊娠する魚」では、サメの仲間やウミタナゴなどを紹介しました。卵を産むだけではなく、妊娠してお腹の中で成長した子どもを産む魚もいるということを知ったという方もいらっしゃいました。

締めくくりのコーナー「なぜ子育てをする」では、魚の子育てが発達した理由について紹介しました。これはたいへん難しい内容で、僅かなスペースで紹介するのに最も苦労した部分でもあります。

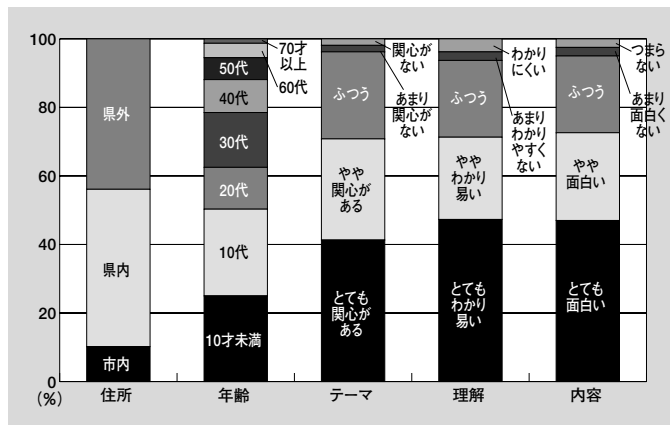
そのほかトピックスとして、「子育てする魚を研究する」では、子育てする魚がどのように調査され、その成果がいかにして一般の人々に還元されるかについて紹介しました（写真右上）。

また、「子育てウオッチング」では、海の博物館や身近で見られる子育てについて紹介しました。130インチ大型スクリーンでは、さまざまな方法で子育てをしている魚たちの姿を約10分間の映像に編集して「マリンシアター」を上映しました（写真右下）。お客様に好評でしたので、会期終了後も展示室ロビーにあるTVモニターで上映を続けています。



アンケート集計結果

開催日数：50日
 期間入場者数：30824名
 アンケート回答数：329名
 パネル：31点
 写真：58点
 映像：2点
 標本：65点
 生体：13点
 模型：10点
 実物：21点
 配付資料：3種（ガイドブック、解説シート、ワークシート）



今回の企画展についてアンケートを実施したところ、329名の方から回答をいただきました（上図）。「子育てする魚」というテーマについては、7割以上の方が興味があるとの回答でした。また、展示のわかりやすさや内容についても7割以上の方がわかりやすい、面白いとの回答でした。面白かった展示についてお尋ねしたところ、マハゼの巣穴をあげた方が最も多く、子育て三面記事、妊娠する魚、マリンシアターがそれに続きました。ご意見ご要望としては、「魚の子育てにいろいろあることを改めて知ることができ、とても興味深かった（30代女性）」、「今後も面白い企画をおねがいします」（50代男性）といった声が寄せられました。

ロビー案内板を新調

海の博物館に入ってすぐ、みなさまが最初に目にするロビーの案内板が新しくなりました。一番大きな変更点は、マグネット式になり、情報をこまめに更新できるようになったことです。このため、その日行われるイベントや、最近新しくなった展示など、その時々海の博物館の情報が一目で分かるようになりました。また、その時間にどんなイベントがあるかが分かりやすいように、時計も取り付けられています。色使いもこれまでよりずっとカラフルになって、楽しくて分かりやすくなりました。ご来館の際には、まずこの案内板でその日の情報を確認してみてください。



貝類標本の受け入れ

平成15年4月、館山市在住の故 和田隆治氏のご遺族から、約1000種4100点の貝類標本をご寄贈いただきました。これらの標本は、故人が昭和初期に収集されたもので、主な採集地は房総半島沿岸と南洋マーシャル諸島（現マーシャル諸島共和国）です。これらの中には、現在ではほとんど目にするのできなくなった内房沿岸産のハマグリや、日本に侵入した直後の昭和初期に採集されたとされる神戸港産のムラサキイガイなど、貴重な標本も含まれています。現在、整理・登録を進めており、今後海の博物館の貴重な収蔵資料として活用させていただこうと思っています。



エチゼンクラゲ、房総の海を襲う!

今年度は、年の瀬から年明けにかけて、房総半島にエチゼンクラゲが数多く流れ着きました。エチゼンクラゲは、もともと東シナ海に生息し、時に日本海まで流れてくることが知られています。しかし、昨夏に大量に日本海に出現したエチゼンクラゲの一部は、対馬暖流によって日本海を北上、津軽海峡を経て、今度は親潮に乗って三陸沖を南下しました。これらのクラゲは外房の漁業に大きな打撃を与え、その一部は沿岸にまでうち寄せられ、海の博物館の前の海岸でも観察することができました。博物館では、資料として3個体の標本を採集し、そのうちの1個体は展示室ロビーでの展示も行いました。

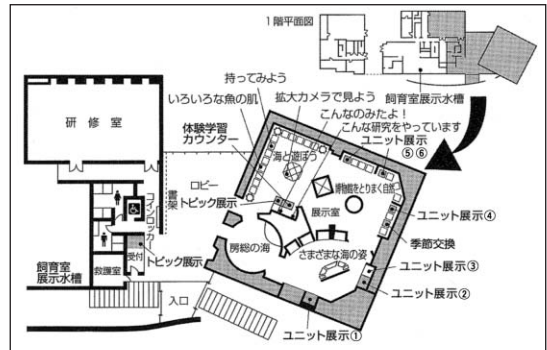


博物館前の海岸に打ち上がったエチゼンクラゲ
(平成16年1月2日撮影)

平成15年度の活動記録

1. 展示活動

海の博物館では、常設展示、マリタイムシネマの上映、マリンサイエンスギャラリーの開催などの展示活動を通して、房総半島を取り巻く海の自然を紹介しています。



(1) 季節展示、ユニット展示、自然観察エリアの展示交換

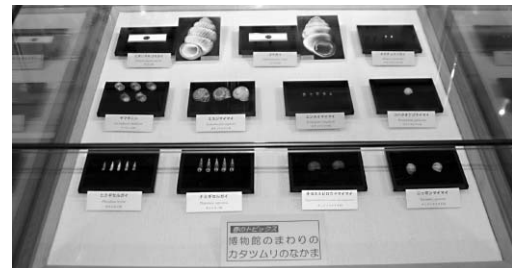
ー1ー ユニット展示

場所	交換前のタイトル	→	交換後のタイトル (交換日)
①	カジメの根元にすむ生きもの	→	カジメ海中林 (平成15年11月1日)
②	館山海底谷	→	サンゴと褐虫藻の共生 (平成16年1月2日)
③	種は旅する	→	南の海からやってくる魚たち (平成16年2月1日)
④	海辺のアジサイ・山のアジサイ 北限の植物	→	北限の植物 (平成15年6月1日) 海辺のアジサイ・山のアジサイ (平成16年3月2日)
⑤	ペンキのような海藻	→	巻貝に生える海藻 (平成15年8月1日)
⑥	貝の舌の秘密	→	エビ・カニ・ヤドカリは親戚 (平成15年10月1日)

※場所の番号は右上の平面図に対応しています。

ー2ー 季節展示

「博物館をとりまく自然」のコーナーでは、それぞれの季節に実際に見られる生きものを紹介するため、季節にあわせて、植物や昆虫の展示を交換しています。また、それぞれの季節のトピックスも紹介しています。



春のトピックス

「博物館のまわりのカタツムリのなかま」

ー3ー 自然観察エリア

博物館前の磯と鶴原理想郷の、2つの自然観察エリアの生きものを定期的に調査し、紹介しています。今年度は磯の観察エリアで見られる海藻の移り変わりを特集しました。

平成15年度に磯の観察エリアで見られた海藻

平成15年	
4月	ネバリモ、ピリヒバなど
5月	ヒジキ、ワカメなど
6月	ヒジキ、イバラノリなど
7月	ボタンアオサ、イボツノマタなど
8月	アオモグサ、ウミトラノオなど
9月	イシゲ、イソモクなど
10月	ヒトエグサ、ウミウチワなど
11月	ハバノリ、ハナフノリなど
12月	シワノカワ、イロロなど
平成16年	
1月	ヒビミドロ、マルバアマノリなど
2月	ホソクビワタモ、カゴメノリなど
3月	フクロノリ、カモガシラノリなど



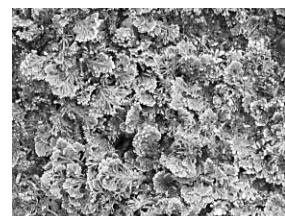
ヒジキ



ウミウチワ



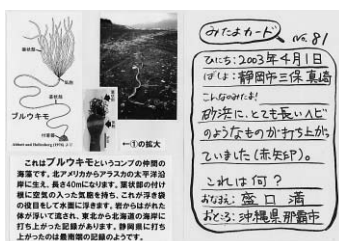
フクロノリ



ピリヒバ

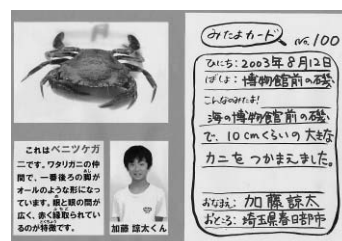
(2) こんなの見たよ!

このコーナーでは、来館者や地元の方々から寄せられた生きものの情報を紹介しています。今年度も、博物館の近くの子どもたちから、近くの磯で見られた生きものの情報がたくさん寄せられました。また、博物館周辺の生きものだけでなく、県内各地や県外からの情報も寄せられ、なかには学術的に大変貴重なものも含まれていました。北アメリカ太平洋沿岸から流されてきたと考えられる海藻のブルウキモ (15ページ参照) の目撃情報も、このコーナーで紹介させていただきました。このコーナーはみなさんからの情報で作るコーナーです。「私の見つけた情報も展示して!」「磯遊びで見つけたけれど名前がわからないな」などという場合は、ぜひ博物館までどうぞ。



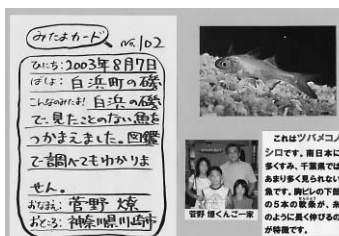
みたよカードNO.81

ブルウキモ



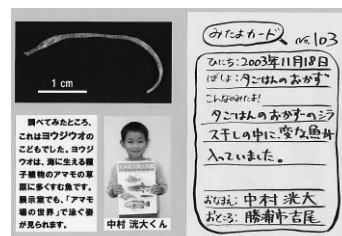
みたよカードNO.100

ベニツケガニ



みたよカードNO.102

ツバメコノシロ



みたよカードNO.103

ヨウジウオ

平成15年度に紹介した話題

No.	タイトル	No.	タイトル
78	カガミダイ	93	ヤマビル
79	ヒオドシ	94	モモスズメ
80	ケブカアワツブガニ	95	マダコ
81	ブルウキモ	96	オオキンカメムシの2令幼虫
82	オオツノヒラムシとトラフナマコ	97	ニホンイモリ
83	メリベウミウシ	98	アオヤガラ
84	イケダホシムシ	99	トグロコウイカの殻
85	ヒメイカ	100	ベニツケガニ
86	オオミズアオ	101	ウミシダの一種
87	イソヒヨドリひな	102	ツバメコノシロ
88	ヒミズ	103	シラス干しのヨウジウオ
89	ハリガネとオオブサ	104	ヒバカリ
90	ギンメダイ	105	カワモズク
91	ウナギのこども	106	マオナガ
92	ミヤマクワガタ		

* 数字は開館時からの通し番号です

こぼれ話

ロビー受付の貝類標本

海の博物館ロビー受付の下にはガラスケースがあり、さまざまな写真や標本などを展示するコーナーになっています。今年度は、「世界の貝」として、さまざまな貝類標本を展示しています。

これらの貝類標本は館山市在住の大橋一之氏に提供していただいた標本の一部です。展示されているのは18種類の貝で、日本国内では見られないものも含まれています。中でも、30cmもある大きなヒレジャコやトウカムリガイ、美しい光沢と模様ホシダカラなどが、ひととき来館者の方々の目を引いています。



(3) こんな研究をやっています

海の博物館の研究者は、それぞれの専門を活かして、海の生きものに関する調査研究を行っています。その成果は展示や教育普及に活用されますが、ではいったいどのような研究をしているのかは、一般の方々にはあまり知られていないと思います。そこで、このコーナーでは、研究員の研究テーマやその成果を紹介しています。ここで紹介しているささやかな成果の積み重ねで、講座を行ったりマリサイエンスギャラリーを開催したりすることができるのです。



絶滅危惧種カイガラアマノリの生育地
(菊地則雄)



アカオビスバスバオトヒメエビの発見
(奥野淳児)



磯の観察エリアの生物モニタリング調査
(高山順子)

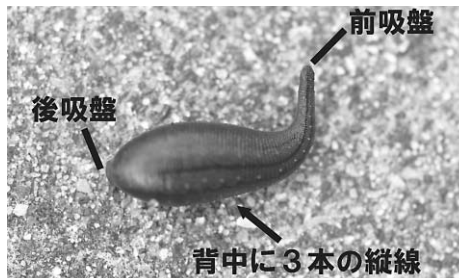
(4) トピック展示

展示室や受付カウンターなどで、採れたばかりの生きものを展示するのがトピック展示です。今年度は表のような生きものを展示しました。



博物館近くでとれたヒメイカの展示。2cmほどの小さなイカです(右上)。

博物館の研修室に落ちていたヤマビル。お客さんにくっついてきたようです。



平成15年度に紹介した話題

- ヒメイカ (平成15年 4/5~5/5)
- カツオノエボシ (平成15年 5/2)
- 磯で見られるウミウシたち (平成15年 5/18~5/23)
- ヤマビル (平成15年 7/12~7/13)
- チャククガ (平成15年 7/26~7/27)
- ギンクラゲ、カツオノエボシ (平成15年 8/8)
- 南の島の美しいヤドカリ (平成15年 9/4~9/19)
- 絶滅危惧種カイガラアマノリ (平成15年 9/19~9/30)
- ヒラタブンブク (平成15年 11/19~11/20)
- エチゼンクラゲ (平成16年 1/3)
- マオナガ (平成16年 1/25)
- コンゴウフグ (平成13年 11/3~展示中)
- 子育てする魚 (平成16年 1/8~展示中)

(5) マリンサイエンスギャラリー

マリサイエンスギャラリーは、毎年異なったテーマで海の生きものを深く掘り下げて紹介する企画展示です。今年度の展示のようすは、2~3ページをご覧ください。

(6) 体験学習指導員の活動

ー1ー 展示室の歩き方

「展示室の歩き方」は、体験学習指導員が展示室一周をわかりやすく案内する展示解説です。1日3～6回、約10分間で展示室の見どころをご案内しています。今年度は173回実施し、944名のお客様に参加していただきました。

来館者が少ない時などには希望者がいないことも多いのですが、少しでも多くのお客様に解説を聞く機会があるように、毎日出来るだけ多くの回数を設定しています。解説を聞いて展示を見ると、また違った展示の見方ができるはずです。ぜひ参加してみてください。



ー2ー 海の体験コーナー

「海の体験コーナー」は、展示室の体験カウンターにおいて、みなさまにさまざまな海まつわるメニューにチャレンジしていただくコーナーです。参加者のみなさまが自分でつくった作品や発見した生きものは、記念としてお持ち帰りいただいています。また、作業の手順や、関連した話題を書いた解説シートもお配りしていますので、自宅に帰ってからもう一度試してみることもできます。

現在は「海藻おしばを作ろう」、「コーラルプリントをしよう」、「シラスをしらべよう」の3つのメニューがあり、今年度も沢山の方々に参加していただきました。



海の体験コーナー参加者数

海藻おしばを作ろう	131名
コーラルプリントをしよう	143名
シラスをしらべよう	104名
計	378名

こぼれ
話

海の体験コーナーの裏側

海の体験コーナーが展示室で行われる時間は、1回約20分だけです。しかし、この一回の体験コーナーをするために、見えないところでも体験学習指導員は仕事をしています。

例えば、「海藻おしばを作ろう」では、材料となる海藻を用意しておく他に、段ボールや新聞紙などを使用するサイズに切って、重ねて袋に詰めておく等の地道な作業が必要です。当日には、事前に必要な道具や材料を用意しておき、終わったら洗い物などの後片づけも行います。楽しい海の体験コーナーのため、体験学習指導員は展示室での仕事の合間を縫って働いているのです。



2. 教育普及活動

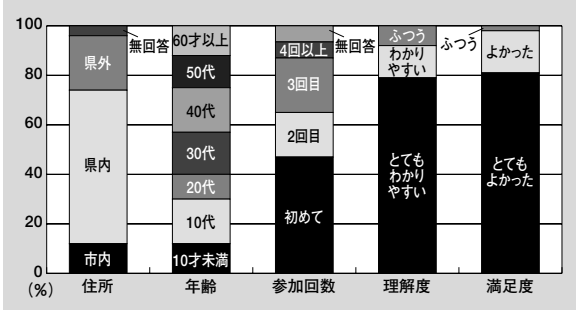
(1) 講座・観察会・フィールドトリップ・バックヤードツアー

今年度は講座12回、観察会13回、フィールドトリップ19回、バックヤードツアー8回を開催しました(10ページ一覧表参照)。また、子供会などのリクエストに応じて、団体を対象としたフィールドトリップを11回実施しました。

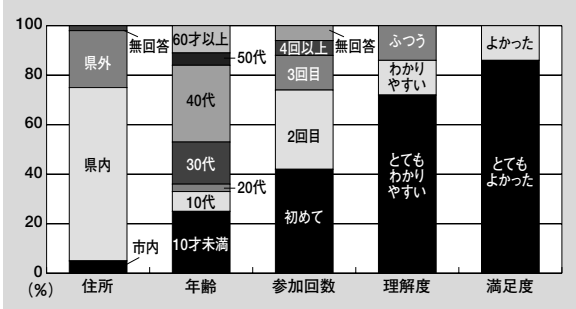


行事に参加してくださった方の声

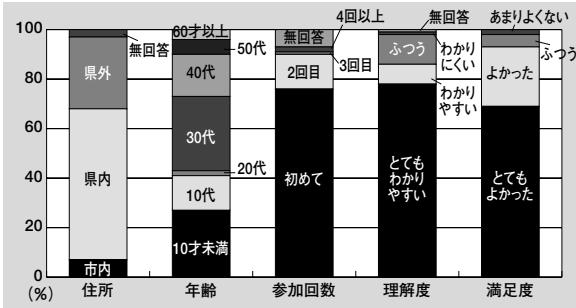
●講座



●観察会



●フィールドトリップ・バックヤードツアー



当館では、行事参加者にアンケートのご協力をいただき、今後の活動の参考にさせていただいています。今年度の行事に対する感想をここにまとめました。

- あっという間に時間が過ぎてしまい、もう少しいろいろな海藻を顕微鏡で見ても良かったです(「顕微鏡で海藻を観察しよう」、40代女性)。
- おにいさんといっしょだったからあんぜんでした(「親子で磯の生きものを探そう1」、小学1年生男子)。
- 初めての経験で楽しかったです。必要な物が全て用意されていたので助かりました(「親子で魚拓を作ってみよう」、30代男性)。
- 名前の由来がわかって良かった。ダイバー向けにもっとやってほしい(「ダイバーのためのエビ・カニ講座」、30代男性)。
- やはり実際に自分の目でウミウシを発見できたのはとてもうれしかったです。勉強になりました(「ウミウシを探そう」、20代女性)。
- 海の鳥を間近に見る機会はなかなかないので、今後もこういう機会を設けて下さい(「船に乗って海鳥を観察しよう1」、40代女性)。
- できれば基礎的な資料を用意していただければと思います。魚の名前がおぼえられなかったです(「親子で磯の小魚を探そう」、40代男性)。

平成15年度行事実施一覧

講座

実施日	時間	タイトル	内容	講師	参加者(名)
H15. 4. 6(日)	10:30~15:00	顕微鏡で海藻を観察しよう	磯で採集した海藻の体のつくりを顕微鏡を使って観察しました。	菊地則雄	3
H15. 5. 3(土)	10:30~15:00	海藻おしぼを作ろう	磯で採集した海藻のおしぼ作りを体験しながら海藻について勉強しました。	菊地則雄	16
H15. 5.17(土)	13:30~15:30	ウミウシを調べよう	博物館前の磯で採集したウミウシを顕微鏡で観察しました。	立川浩之	14
H15. 6. 1(日)	13:00~15:00	親子で磯の生きものを観察しよう1	博物館前の磯で採集した生きものを調べました。	村田明久	22
H15. 6. 8(日)	13:00~15:00	親子で魚拓を作ってみよう	親子で魚拓作りにチャレンジしました。	乃一哲久	21
H15. 6.22(日)	13:30~15:00	海辺の野鳥	勝浦の海辺で見られる野鳥を紹介しました。	桑原和之	6
H15. 7.30(火)	13:00~15:00	親子で磯の生きものを観察しよう2	磯の生きものを使って観察と実験を行いました。	高山順子	24
H15.11.16(日)	13:00~15:00	子育てする魚	子育てをする魚をビデオを交えて紹介しました。	川瀬裕司	4
H15.12. 6(土)	10:00~12:00	ダイバーのためのエビ・カニ講座	ダイバーに人気のあるエビやカニをスライドなどで紹介しました。	奥野淳児	9
H15.12. 6(土)	13:00~15:00	クジラの雑学講座	クジラ類の特徴や形態を標本とスライドを使って紹介しました。	藍澤正宏	4
H16. 1.18(日)	13:00~16:00	深海の生きもの	深海の生きものをスライドで紹介しました。	柳 研介	8
H16. 1.25(日)	13:30~15:00	海鳥	勝浦で見られる海鳥を紹介しました。	桑原和之	7

観察会

実施日	時間	タイトル	内容	講師	参加者(名)
H15. 4.20(日)	11:00~13:00	親子で磯の生きものを探そう入門編	親子でよくみられる磯の生きものを観察しました。	川瀬裕司	21
H15. 4.27(日)	10:00~15:00	春の植物	鵜原理想郷で春に見られる植物を観察しました。	野口昭造	3
H15. 5.17(土)	10:30~12:30	ウミウシを探そう	博物館前の磯でウミウシを観察・採集しました。	立川浩之	12
H15. 6. 1(日)	10:00~12:00	親子で磯の生きものを探そう1	親子で磯の生きものを探しました。	村田明久	22
H15. 6.15(日)	10:00~15:00	鵜原理想郷周辺の地層	鵜原理想郷で見られる地層を観察しました。	高橋直樹	6
H15. 6.22(日)	10:00~12:00	船に乗って海鳥を観察しよう1	漁船に乗って勝浦の海上で見られる野鳥を観察しました。	桑原和之	6
H15. 7.13(日)	9:00~11:00	勝浦のエビ・カニ・ヤドカリ	雨天のため、中止となりました。	奥野淳児	-
H15. 7.20(日)	13:00~15:00	流れ藻に付く稚魚を観察しよう	荒天のため、中止となりました。	乃一哲久	-
H15. 7.27(日)	9:30~12:30	水中メガネで海中の生きものを観察しよう	使い方を練習したのち、海の生きものを観察しました。	柳 研介	18
H15. 7.30(火)	10:00~12:00	親子で磯の生きものを探そう2	雨天のため、講座のみの開催となりました。	高山順子	-
H15. 8.23(土)	10:00~15:00	夏の植物	鵜原理想郷で夏に見られる植物を観察しました。	野口昭造	6
H15. 8.30(土)	10:30~12:30	親子で磯の小魚を探そう	博物館前の磯で小魚を観察しました。	藍澤正宏	22
H15.11. 9(日)	10:00~15:00	秋の植物	鵜原理想郷で秋に見られる植物を観察しました。	野口昭造	6
H16. 1.25(日)	10:00~12:00	船に乗って海鳥を観察しよう2	漁船に乗って勝浦の海上で見られる野鳥を観察しました。	桑原和之	8
H16. 2. 8(日)	10:00~15:00	冬の植物	鵜原理想郷で冬に見られる植物を観察しました。	野口昭造	6
H16. 3.27(土)	13:00~15:30	食べられる海藻を探そう	食用となる海藻を観察し、それらと漁業や食文化との関連を紹介しました。	菊地則雄	17

フィールドトリップ磯の生きもの

実施日	時間	講師	参加者(名)
H15. 4. 6(日)	11:00~12:00	立川浩之	12
H15. 4.19(土)	11:00~12:00	奥野淳児	6
H15. 5. 4(日)	11:30~12:30	村田明久	22
H15. 5. 4(日)	11:30~12:30	乃一哲久	19
H15. 5. 5(月)	11:00~12:00	柳 研介	6
H15. 5. 5(月)	13:00~14:00	柳 研介	25
H15. 5.17(土)	11:00~12:00	奥野淳児	11
H15. 5.18(日)	11:00~12:00	高山順子	2
H15. 6.14(土)	10:00~11:00	藍澤正宏	18
H15. 6.15(日)	11:00~12:00	高山順子	11
H15. 6.29(日)	10:00~11:00	藍澤正宏	7
H15. 7. 5(土)	14:00~15:00	村田明久	15
H15. 8.13(火)	10:30~11:00	川瀬裕司	15
H15. 8.13(火)	12:00~12:30	川瀬裕司	18
H15. 8.30(日)	11:00~12:00	立川浩之	18
H15. 9.27(土)	11:00~12:00	村田明久	13
H16. 3.13(土)	14:00~15:00	菊地則雄	4
H16. 3.21(日)	10:30~11:30	菊地則雄	2
H16. 3.28(日)	14:00~15:00	菊地則雄	13

バックヤードツアー

実施日	時間	講師	参加者(名)
H15. 7.13(日)	10:00~11:00	乃一哲久	23
H15. 8.12(火)	10:00~10:30	藍澤正宏	13
H15. 8.12(火)	10:45~11:15	乃一哲久	14
H15. 8.13(水)	11:15~11:45	川瀬裕司	16
H15.10.25(土)	13:00~13:30	川瀬裕司	12
H16. 1.11(日)	13:00~13:30	藍澤正宏	14
H16. 2.22(日)	13:00~13:30	乃一哲久	15
H16. 3.20(土)	13:00~13:30	柳 研介	16

*平成15年4月5日(土)、5月31日(土)は荒天のため中止

(2) 学校連携

—1— 海の環境学習研修会



海の環境学習研修会は、先生方に海の生きものや海辺の自然を対象とした校外学習を企画実践するための基礎的知識を修得してもらうことを目的に、毎年実施しています。今年は、7月11日と7月31日に、基礎編として、実施計画の立て方や海辺で行動する際の留意点などを、館内での講義と野外での体験を通して学んで頂きました。また、8月1日には、応用編として、教材用の標本作製法や自作テキスト用の写真撮影技術などについて、館内で実習して頂きました。参加者は、それぞれ21名、26名、11名で、研修終了後のアンケートには、多くの方々が有意義な研修であったとの感想を記されていました。

—2— 野外実習授業



野外実習授業は、学校の先生方と当館研究員が共同で実施する校外学習です。本年度は、36校からの申し込みがあり、日程が調整できた21校と共同開催しました。博物館に来ていただき、目の前の海で生きものの観察を行った学校が14校、研究員が出向き、学校や学校近くの海で授業を行った学校が7校ありました。野外での授業は、子どもたちの目が輝いて、海や海の生きものへの関心の高さを感じました。

—3— 教員研修

平成15年8月18、19日の両日、勝浦市立清海小学校教諭・田口知彦氏が初任者研修「社会奉仕活動」のため、当館で研修を行いました。当館が定期的に行っている鵜原理想郷でのモニタリング調査や、そこで撮影した写真を展示するための加工作業など、博物館職員が日頃行っている実務の一部を経験していただきました。

(3) 広報

ー1ー 刊行物

本誌「いそっぴ通信」をはじめ、今年度発行した当館の刊行物を下の表にまとめました。また、日本財団より、マリンサイエンスギャラリーの展示図録（下図）の提供を受けました。

シリーズ	タイトル
ー	マリンサイエンスギャラリー「子育てする魚」ポスター
ー	マリンサイエンスギャラリー「子育てする魚」リーフレット
マリンサイエンスギャラリー展示解説シート	子育てする魚を研究する Q & A
マリンサイエンスギャラリーワークシート	魚の子育てクイズ
展示解説シート19	館山の海底-サンゴと褐虫藻の共生
ワークシート13	館山の海底-かっちゅうそうとサンゴの助け合い
展示解説シート20	房総の海-房総の生きもの
ワークシート14	房総の海-房総の生きもの
海の生きもの観察ノート3	磯の生きもの暮らし
ー	平成16年度開催行事のご案内
分館海の博物館ニュースレター	いそっぴ通信 No. 5 (平成15年度版)



ー2ー ホームページ

今年度はホームページを大幅にリニューアルしました。現在、当館ホームページへのカウンター数は、14万に達しようとしています。これからもみなさまに愛されるホームページづくりを目指していきます。



主な更新内容一覧

- 平成15年11月21日
「バックヤードツアー」のご案内を新規追加
平成14年度収蔵資料展「イッカク-長い牙を持つクジラ-」のページを新規追加
- 平成15年12月20日
平成13年度マリンサイエンスギャラリー「クジラを知る」の内容を更新
- 平成16年1月11日
理想郷自然観察エリアのページを一新
- 平成16年1月23日
当館刊行物をダウンロードできるようになりました
- 平成16年2月5日
平成14年度マリンサイエンスギャラリー「ヤドカリの世界」の内容を更新
- 平成16年2月11日
サイトマップを作成
- 平成16年3月2日
ホームページのデザインを一新

(4) 館外での講演等

海の博物館研究員は、他機関からの依頼を受けて当館以外の場所でも講演や実技指導を行うことがあります。今年度は、下表のような活動を行いました。

日付	主催	行事名	演題・内容	場所	演者
H15.11.15(土)	千葉県立美術館他	千葉学講座	「魚たちの巧みな子育て」	千葉県立美術館 (千葉市)	川瀬裕司
H15.11.16(日)	鴨川青年の家	鴨川青年の家まつり	海藻おしぼ作り	鴨川青年の家 (鴨川市)	乃一哲久他
H16. 3. 3(水)~3. 7(日)	夷隅支庁他	いすみ観光写真&物産展	海の博物館の施設、活動紹介 (パネル展示)	現代産業科学館 (市川市)	乃一哲久他
H16. 3.14(日)	浦安市郷土博物館	浦安市郷土博物館観察会	「海藻の観察会」	日の出海岸干潟 (浦安市)	菊地則雄

博物館のさまざまな仕事

～標本写真の収集と保管～

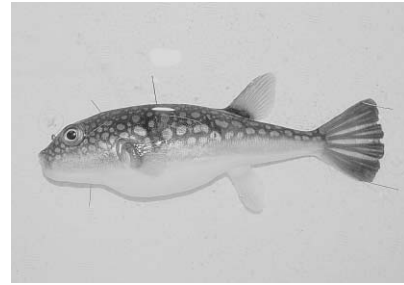
博物館にはさまざまな仕事があります。それらは、1) 資料の収集と保管、2) 資料に基づいた調査研究、3) 展示、4) 教育普及の4つに大別されます。海の博物館では、常設展示の維持・管理や年1回開催しているマリンサイエンスギャラリーが展示活動、観察会や講座などの行事、刊行物やホームページの製作などが教育普及活動に該当します。そして、自然の中から常に新しいことを発見し、展示や教育普及などで紹介できる形に仕上げていくのが資料収集と調査研究の両活動です。このように、博物館のさまざまな仕事の土台となっている資料収集活動のうち、ここでは特に海の博物館で精力的に行っている写真資料の収集や製作、保管について紹介します。

資料収集の最も重要なことは、将来にわたって使えるように保管することです。海の博物館では海の生きものの資料として、標本ばかりでなくその写真も併せて収集し、保管しています。生きものを恒久的に保存する場合、保存用の液には70%に希釈したエチルアルコールを利用します。しかし、エチルアルコールに入れてしまうと、生きているときに特徴的な色彩がほとんど消失してしまいます。保存用の液に入れる前に写真を撮影しておくことは、生きているときの色彩を記録できる唯一の方法なのです。海の博物館の展示パネルや刊行物、ホームページには、影を消して生きものの輪郭をうまく引き立たせた標本写真が随所で使われています。

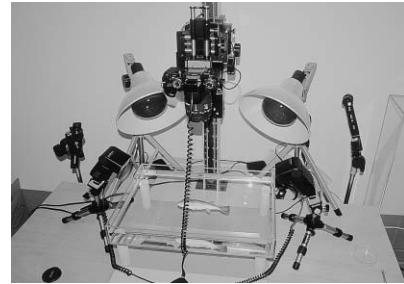
このような標本写真の撮影にはいくつかの道具と技術が必要ですが、難しいことはありません。海の博物館で使っている機材は、市販されている一眼レフカメラ、小さなものを撮影するための専用のマクロレンズ、カメラを固定する頑丈な撮影スタンド、照明として撮影専用のライトとストロボ、そして被写体となる標本を入れる、ガラスの浅い撮影用水槽です。この水槽を使うのには、次の理由があるためです。被写体となる生きものに普通にライトをあてると、どこかにライトの写り込みや影ができてしまいます。しかし、水に入れることによって、光の反射は平らな水面で一定になり、表面が光りにくくなります。

魚類を撮影する場合、撮影前に必ず形を整えます。魚体についた汚れやぬめりを洗い、固定液を入れたバットの中で、背びれやしりびれなどの各ひれが広がった状態で細い昆虫針で止め、固定します。これを水をはった水槽に入れ、影が映り込まないようにライトの向きを調整し、撮影します。最近の写真撮影は、オート機能など、カメラのほうで技術的な部分を補ってくれるので、綺麗な写真が誰にでも簡単に撮影できるようになりました。しかし、標本写真の場合、傷のないものや鮮度のよいものなど、標本の状態が良くないと綺麗な写真が撮れません。従って、いかに状態の良い標本の収集するかがきわめて重要になります。生きものの場合、種類によって棲んでいる環境や生態も異なるため、被写体の収集には経験と感がどうしても必要になります。

撮影した写真は、ネガやポジ、プリントの状態でも保管します。しかし、これらは傷が付いたり、また時間とともに劣化してしまうため、最近の技術の進歩により、劣化しないデジタル画像が扱えるようになったことから、デジタルデータの形態でも保管しています。



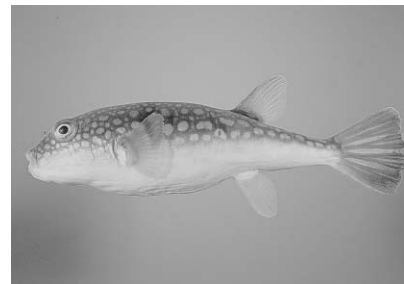
固定液に入れて鱗が倒れないように細い針で固定します。



標本を撮影水槽にいれます。



ライトの向きと標本の位置を調節します。



撮影した標本（種類はコモンフグ）

3. 資料収集活動

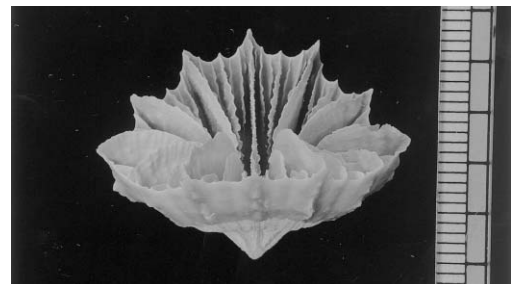
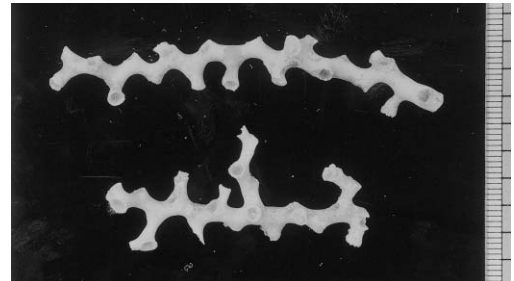
(1) 伊豆大島での資料収集

本年度も昨年・一昨年度に続き、東京都の伊豆大島において海洋生物資料の収集を行いました。本年度は主に海藻類と無脊椎動物を中心として、4月18日から21日まで、島内各所の海岸の潮間帯で採集を行いました。採集されたのは海藻類標本約300点、無脊椎動物標本約450点です。天気の良い日には房総半島南部から肉眼でも見える伊豆大島ですが、採集された生物の中には、房総半島沿岸では見つかっていないものもいろいろとみられました。この結果は、昨年・一昨年度の調査の結果と併せて現在報告書を取りまとめ中で、近日中にみなさまにご報告できる予定です。



(2) 収集資料の紹介

本年度に収集した資料のなかから、イシサンゴ類の標本をご紹介します。イシサンゴ類は植物のように見えますが、イソギンチャクやクラゲと同じ刺胞動物のなかまです。本年度はスクーバを使っての潜水調査、調査船に乗船しての共同研究、漁師さんからの提供などにより約250点の標本を収集しました。上の写真はピワガライシという群体性のイシサンゴで、勝浦市沖の水深390mの所で釣り針にひっかかって採れたものを勝浦市の中村和正さんから提供していただきました。下の写真はセンスガイの一種で、東京大学海洋研究所との共同研究で調査船淡青丸により太東崎沖合の水深1000mの所から採集されました。



(3) 資料登録点数

資料登録点数（平成16年3月31日現在）

資料の種類	登録点数	資料の種類	登録点数
海綿動物	213	魚 類	7691
刺胞動物	3698	藻 類	5227
環形動物	2004	種子植物	56
貝 類	4215	写真資料	9254
甲 殻 類	1625	動画資料	920
棘皮動物	1173	図書資料	1449
その他の無脊椎動物	612		

(4) 提供資料の紹介

マオナガ

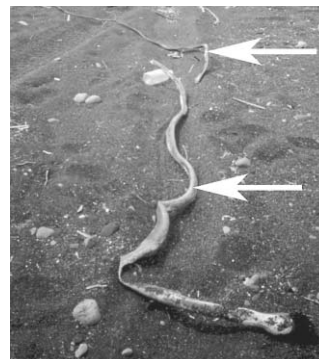
平成16年1月25日に、地元の漁師さんから刺網に掛かった大きなサメを頂きました。このサメはオナガザメの仲間のマオナガという種類で、全長2.5mもありましたが、その約半分は細長い尾びれです。沿岸域や外洋の表層から水深300mまでに生息し、若魚は浅い水深帯に見られます。このサメは大きくなると全長6mになる大型種で、背びれや胸びれの先端が尖ることが特徴です。餌は主に魚類です。オナガザメの仲間には、本種の他にニタリとハチワレの2種が日本沿岸から知られています（どちらも魚とは思えない名前です）。



マオナガ（全長2.5m） 勝浦市鵜原産

ブルウキモ

静岡県三保の海岸に打ち上げられた海藻ブルウキモの体の一部が、沖縄県にすむ盛口満さんから提供されました。ブルウキモは、北アメリカからアラスカに生えるコンブの仲間で、長さ40mになります。日本沿岸には生えていませんが、その昔に北海道や東北地方に打ち上がった記録があります。静岡県で打ち上がったのは最南端の記録であると思われ、その標本は、貴重な記録を示す証拠として大切に保管されています。



砂浜に打ち上がったブルウキモ
(写真：盛口満氏)

溝腹類の仲間

平成15年12月19日に、博物館近くの漁師さんから、キンメダイ釣りの混獲物を頂きました。これらの混獲物は水深370mから得られたものです。この中に、体長7~8mm程度の、小さな虫のようなものが入っていました。よく調べてみると、これはカセミズなどに近い仲間の、溝腹類の1種であることがわかりました。こう見えても、溝腹類は、貝やイカ・タコなどと同じ仲間、軟体動物の一員です。このグループについては、まだまだ未知のことが多く、この標本は、国立科学博物館で溝腹類の研究を行っている研究者によって、詳しく調べられることとなりました。



溝腹類の1種（体長7-8mm）

(5) 資料の貸し出し

本年度は、ミツクリザメの剥製標本1点をアクアワールド・茨城県大洗水族館に、また海藻標本14点を浦安市郷土博物館に展示用として貸し出しました。その他、研究目的での標本の貸し出しは10件で、貸出先は国立科学博物館、横浜国立大学、琉球大学、カナダのアルバータ大学、アメリカのアラン・ハンコック財団などでした。

4. 調査研究活動

(1) 総合分野

平成15年度は、魚類・無脊椎動物・藻類の各グループについて、特に黒潮の影響にある海域を中心とした南房総各地において、定置網などによる漁業混獲物の収集、スキューバダイビングによる観察と収集、潮間帯での観察と収集などを行いました。このような資料収集活動によって得られた生きものは、詳しく形を観察し、可能な限り種類を判別し、写真と共に博物館の登録資料として保存されます。これらの標本は、生物相の解明や、その変遷の調査等において、その証拠となる重要なものです。海の博物館では、これらの貴重な資料を、管理・保存しています。また、これらの標本は、データベースに登録されており、千葉の県立博物館のホームページから、その内容を検索することができるようになっていきます。

平成12年度から行っている南房総を中心とした黒潮影響域に生息する生物の調査は、平成15年度で終了します。この調査により、これまで房総半島からは記録のなかった種類、また新種も多く発見されました。これらの結果は、随時、学術成果として専門などに公表してきました。平成16年度には、これらの総括を公表すると共に、今度は、銚子～外房海域を中心とした、親潮影響域に生息する生物の調査を開始する予定です。

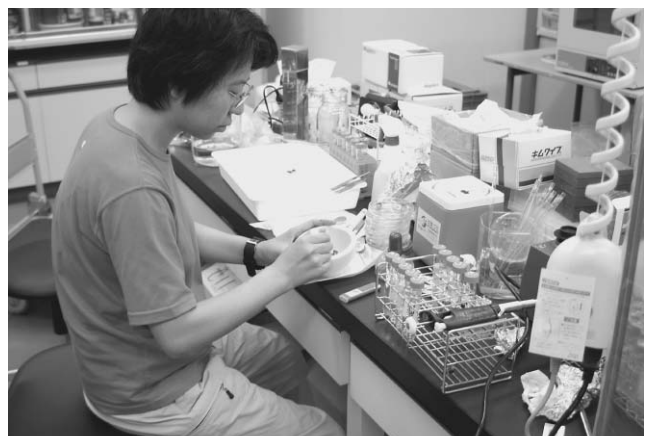
(2) 詳細分野

海の博物館の研究員は、それぞれが海の生きものについての特定の分野の研究をしています。このような専門性を活かし、独自のテーマを深く掘り下げて研究するのが「詳細分野」の研究です。研究の内容は、例えば魚の繁殖行動の観察であったり、生きものの分類であったり、対象とする生きものやその方法もさまざまです。このような調査研究の積み重ねにより、海の生きもののふしぎを少しずつ解き明かして行くことができるのです。

また、それぞれの分野において、各研究員は常に第一線の研究を続けることを目標としており、多くの情報を常に発信し続けています。専門家のいない博物館には情報も標本も集まりませんし、逆に多様な社会的期待に応えることもできません。海の博物館には、貴重な情報や多くの標本が寄せられたり、また報道機関からのさまざまな依頼にも数多く対応しています。これらは、情報を発信し続けるという、たゆまぬ研究に対する努力によって初めて得られるものであり、このような活動が、まさに博物館の活力の原動力となっています。

(3) 外来研究員

平成15年度は、独立行政法人製品評価技術基盤機構バイオテクノロジー本部生物遺伝資源開発部門資源開発課の福永幸代氏が、外来研究員として海の博物館を利用しました。福永氏は、有用微生物の新規発見を目指し、各種の海洋生物の体内に特異的に生息している微生物のDNA解析・培養等を行っています。海の博物館では、研究員の採集した標本から、微生物の採取等を行いました。



実験室で微生物の抽出を行う福永氏

(4) 研究成果の公表

—1— 新たに報告された種

八丈島で発見されたウミハリネズミ

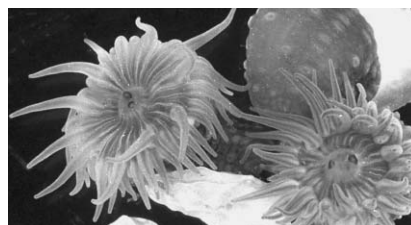
トゲカイカムリ科カニ類の一種、ウミハリネズミ *Hirsutodynamene spinosa* は、日本ではこれまで沖縄県のみから分布が確認されていました。2003年8月、八丈島在住のダイバーより、同島で採集されたウミハリネズミの雌1個体とその写真が当館研究員奥野淳兒のもとに送られてきました。この標本はウミハリネズミの分布の北限記録となり、また日本では本種の3番目の記録となることから、採集してくださったダイバーとの共同研究とし、その成果を伊豆海洋公園通信第14巻11号に発表しました。



珍しいカニ・ウミハリネズミ

ヨロイイソギンチャクの仲間の新種

イソギンチャクの仲間は、種類を分類するのが難しいことで有名です。そのため、潮間帯に生息しているイソギンチャクの中にも、まだ名前の付いていない種類が少なくありません。そのようなイソギンチャクのうち、東北地方から房総半島周辺に生息するヨロイイソギンチャクの仲間に、これまで知られていなかった種が発見されました。この研究は、当館研究員柳 研介と米国の M. Daly 博士との共同研究として進められました。研究結果をまとめた学術論文は、米国の学術雑誌に採択されたので、間もなく新種として発表される予定です。



新しく発見されたイソギンチャク

—2— 公表された研究成果一覧

堀江義一

Horie, Y., Abliz, P., Fukushima, K., Okada, K., Takakii, G. M. C. 2003. Two new species of *Neosartorya* from Amazonian soil, Brazil. *Mycoscience*, 44: 397-402
堀江義一. 2003. *Aspergillus* のテレオモルフの病原性とカビ毒生産性について. *日菌報*, 44: 25-36.

藍澤正宏

藍澤正宏(監修). 2003. DVD映像図鑑. 日本の海水魚. 日本水中映像(制作), シンフォレスト, 東京.

乃一哲久

乃一哲久・山口勝秀・玉本泰之. 2003. 長崎県大瀬戸町雪浦川の陸封アユ. *長崎県生物学会誌*, (56): 1-6.

立川浩之

Asakura, A. and H. Tachikawa. 2003. Hermit crabs of the genus *Calcinus* from Japanese and adjacent waters (Crustacea Decapoda Anomura Diogenidae): *C. hazletti* Haig and McLaughlin, 1984 and *C. haigae* Wooster, 1984. *Crustaceana*, 76: 717-739.

Asakura, A. and H. Tachikawa. 2003. *Boninpagurus acanthocheles*, a new genus and species of hermit crab (Decapoda: Anomura: Paguridae) from shallow waters of the Ogasawara (Bonin) Islands, Japan. *J. Crust. Biol.*, 24(1): 157-167.

Asakura, A., H. Tachikawa and T. Kosuge, 2003. The first record of *Dardanus brachyops* Forest 1962 (Decapoda Anomura Diogenidae) from tropical Japan: a redescription of the male and supplemental information on the female morphology. *Tropical Zool.*, 16: 189-207.

立川浩之. 2003. シュモクザメの謎. アイボ (小笠原自然文化研究所), 8: 16-17.

西 栄二郎・立川浩之. 2003. 小笠原諸島父島沿岸に産するアムサカンザシゴカイ (多毛綱, カンザシゴカイ科). *南紀生物*, 45(1): 21-23.

小川数也・立川浩之・高橋耿之介. 2003. 日本産非造礁性イシサンゴ類の再検討と同定の手引-IX. ハナツツサンゴ属・コマサンゴ属・ホシコマサンゴ属. *南紀生物*, 45(1): 57-63.

川瀬裕司

Kawase, H. 2003. Spawning behavior and biparental egg care of the crosshatch triggerfish, *Xanthichthys mento* (Balistidae). *Env. Biol. Fish.* 66 (3): 211-219.

菊地則雄

菊地則雄. 2003. 紅藻アマノリ類. 竹内均(監修), 地球環境調査計測事典 第3巻 沿岸域編. pp. 815-819. フジ・テクノシステム, 東京.

菊地則雄. 2004. ノリたちは、今. 浦安市郷土博物館調査報告 第2集「のり1—海苔養殖はいま—」: 4-15. 浦安市郷土博物館.

菊地則雄・島村嘉一・尾上一明. 2003. 浦安市沿岸における絶滅危惧種カメガラアマノリ (紅藻綱ウシケノリ目) の生育. *千葉生物誌*, 52(2): 71-74.

奥野淳兒

Okuno, J. and M. Mitsuhashi. 2003. A new species of the genus *Periclimenes* Costa, 1844 (Crustacea: Decapoda: Palaemonidae) from the Ryukyu Islands, southern Japan. *Proc. Biol. Soc. Wash.*, 116(2): 487-496.

Okuno, J., M. Takeda and T. Kase. 2003. Additional specimens and range extension of *Brachycarpus crosnieri* Bruce, 1998 (Decapoda, Caridea, Palaemonidae). *Crustaceana*, 76(9): 1143-1146.

Osawa, M. and J. Okuno. 2003. A new genus and new species of the family Paguridae (Crustacea: Decapoda: Anomura), from Hachijo-jima Island, Japan, with a list of hermit crab species found in the same collection sites. *Proc. Biol. Soc. Wash.* 116(4): 943-955.

Yang, H. J. and J. Okuno. 2004. First larvae of *Lebbeus comanthi* and *Thor amboinensis* (Decapoda: Hippolytidae) hatched in the laboratory. *Korean J. Biol. Sci.* 8: 19-25.

奥野淳兒. 2004. 房総半島と琉球列島からのシンイボテガニ *Neoactumnus convexus* Sakai, 1964 (十脚目, 短尾下目, ケブカガニ科) の新記録. *千葉生物誌*, 53(1/2): 1-4.

奥野淳兒・横川智章・田中幸太郎. 2003. 伊豆諸島・八丈島におけるウミハリネズミの北限記録. *伊豆海洋公園通信*, 14(11): 2-4.

川本剛志・奥野淳兒. 2003. エビ・カニガイドブック2—沖縄・久米島の海から—, 173 pp. 阪急コミュニケーションズ, 東京.

柳 研介

Takahashi, T., Y. Kobayakawa, Y. Muneoka, Y. Fujisawa, S. Mohri, M. Hatta, H. Shimizu, T. Fujisawa, T. Sugiyama, M. Takahara, K. Yanagi, and O. Koizumi. 2003. Identification of a new member of the GLWamide peptide family: physiological activity and cellular localization in cnidarian polyps. *Comp. Biochem. Physiol., Pt. B.*, 135: 309-324.

柳 研介. 2004. 謎の生物発見! ? . ちりぼたん, 35(1): 3-9

並河 洋・平野弥生・今原幸光・岩瀬文人・柳 研介・小川数也. 2003. 相模灘の刺胞動物相についての研究. 相模灘およびその沿岸地域の動植物相の経時的比較に基づく環境変遷解明の調査研究 (平成13-17年度). 平成17年度調査研究報告, pp. 20-31.

事務室より

1. 平成15年度の利用状況

海の博物館では、自動計測システムによって入場者数を計数しています。また、事前に提出して頂いている団体見学申込書や、受付で記載していただいている団体名簿によって団体でのご利用を確認しています。本年度の当館の利用状況は下表の通りです。

月	4	5	6	7	8	9
開館日数	27	27	25	27	31	25
入場者数	18,070	22,322	12,297	26,347	53,585	17,324
一般団体件数	4	16	19	12	4	12
学校団体件数	2	8	7	9	2	3
団体入場者数	207	1,296	1,477	854	265	822

10	11	12	1	2	3	累計
23	26	19	26	25	26	307
13,966	17,608	6,345	16,223	15,837	18,127	238,051
19	25	13	6	13	20	163
3			2	1	1	38
751	1,012	644	331	614	954	9,227

2. 平成15年度の臨時開館・休館

千葉県 の 県立博物館は、毎週月曜日（休日の場合はその翌日）と年末年始を定期休館日としています。海の博物館では、利用者が集中するゴールデンウィーク、夏休み期間中の定期休館日及び年始に臨時開館しました。

施設のメンテナンス作業などのため、10月7日～10日と12月24日～25日を臨時休館日としました。

臨時開館日	入場者数
H15. 4.28	895
H15. 8. 4	1,067
H15. 8.11	1,689
H15. 8.18	1,738
H15. 8.25	1,383
H16. 1. 2	2,051
H16. 1. 3	2,310
H16. 1. 4	1,551
計	12,684

3. 防犯・防災訓練

当館では、来館者に安心して施設を利用していただけるよう、特段の安全管理と不測の事態への対処を講じるうえで、勝浦警察署等の協力で平成15年12月16日（火）防犯訓練を実施しました。

防犯意識が高まり、非常時の人命の安全を第一に考え、職員全員一致団結し不審者確保に努めました。

また、平成16年2月18日（水）には防災意識の高揚と被害の極限防止を図る目的により、防災訓練を実施しました。



4. 博物館への手紙

「博物館への手紙」は、みなさまからのご意見やご要望、海の生きものに関するご質問などをお寄せいただく窓口です。展示ロビーに用紙と投函箱が備えてあり、お気軽に利用できるようになっています。また、平成16年からは書式を変更し、公開を希望される方のご意見は展示ロビーで閲覧できるようになりました。博物館への手紙には、さまざまなご意見・ご感想や質問が寄せられ、中にはかわいい魚やカニなどのイラストを書いてくれるお子さんもいます。

本年度は724通のお便りを頂きました。そのうち580通が「楽しかった」「また来たい」等良かったというご意見、23通が質問、121通が博物館に対するご意見、55通がその他でした（重複あり）。その中の一部を紹介します。

・とってもおもしろかったです。一番おもしろかったのは、ぜんぶです。ツチクジラのかせきが大きくてびっくりしました。とても楽しかったです。(8歳男性)

・わたしが、いちばんおもしろかったことは、のぞくと、かになどヒトデがいるところです。そのほかにも貝などいろいろあります。(8歳女性)

・ほかではめったにさわれないウミガメの骨がよかったです。(12歳男性)

・本日は無料とは知らず来館したところ、本当に無料と知りラッキーでした。今日はゆっくりと心を落ち着かせて海底の美しい生物たちの姿や多くの種類の生物を拝見することが出来とても嬉しく思います。(抜粋) (63歳女性)

・大変よい思い出になりました。こんど孫を連れてきます。(56歳男性)

・海の生きものをたくさん見られてとても楽しかったです。(9歳女性)

・特に、実際にサメ肌や、カジキのふんや、不思議な生物など触れて良かったです。(抜粋) (18歳女性)

・すごく楽しく過ごさせてもらいました。説明書も大人用と子供用とがあり、親切に出来ています。(抜粋) (34歳女性)

・海育ちですが、知らない魚がいっぱいいました。次は孫を連れてもう一度、ぜひ来たいと思います。(64歳女性)

・BGMがないのでさみしい。(無記名)

・もっとクイズとかもあったら楽しいと思います。(24歳女性)

・もっとてんじしてあったらよかったです。(抜粋) (12歳女性)

・おもしろい名前の魚やヒトデなどがたくさんいて楽しかったです。もっと沢山面白い海の生き物を見せてください。(20歳)

・ここに来て初めてあることが分かった。もっと、外に宣伝をして来客を増やしてはどうか？PR不足と思います。(無記名)

・もっとしせつを広くして、いろいろな物をおいてもらえるとうれいです。(無記名)

・いいところですね。スタンプがきにいりました。もっとふやしてください。(10歳男性)

・とてもおもしろかったです。興味深く見させていただきました。ただ展示品を見て知識を深めるだけでなく、実際に触れたり、体験できるのが良かったです。また、子どもたち向けに野外観察の心得？的なことがあったのも良いと思いました。(無記名)

・おもしろかったよ。またきます。ヒトデ、カニ、たくさんのいきものがみれました。ちいさなカイおおきなさかな たくさんのいきものにあえました。これからもさかなたちのめんどろをみるのがんばってください。(6歳女性)

・展示物は大変充実していておどろきました。次回は子供と供に来園したいと思います。無料にての公開は大変ありがたいと思います。こんどもぜひ続けて下さい。(50歳男性)

平成16年度の行事予定

1. マリンサイエンスギャラリー

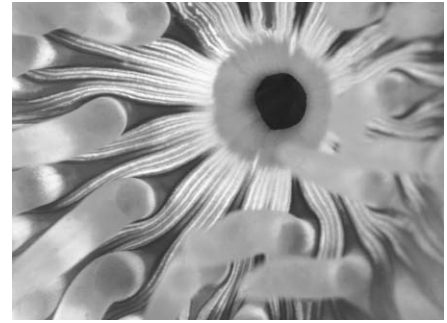
マリンサイエンスギャラリーとは、毎年異なったテーマで海の生きものを深く掘り下げて紹介する、海の博物館の企画展示です。

～水中に咲く花～ イソギンチャクの世界

平成16年10月30日（土）～平成17年1月10日（月）

潮の引いた磯で、指でつつくと、びゅーっと水を吐き出す物体、そう、それがイソギンチャクです。しかし、イソギンチャクは、必ずしも「磯」で「巾着」のようにすぼまっているだけ、というわけではありません。イソギンチャクの仲間は、南極や北極などの寒い海から熱帯の海、また潮間帯から深海と、世界中のあらゆる海に生息しており、その色や形も実にさまざまです。また、一見じっとしているだけのように見えるイソギンチャクも、その生活ぶりは驚きに満ちています。

平成16年度マリンサイエンスギャラリー「イソギンチャクの世界」では、普段あまり注目されることのないイソギンチャクの驚愕の世界を徹底的に紹介します。「泳ぐイソギンチャク」、「戦うイソギンチャク」、「食用になるイソギンチャク」、「猛毒のイソギンチャク」、「分裂するイソギンチャク」など、びっくりするようなイソギンチャクワールドが、みなさまをお待ちしています。



2. 講座・観察会・フィールドトリップ・バックヤードツアー

ー1ー 講座

実施予定日	予定時間	タイトル	内容	題(名)	対象
H16. 4.18(日)	10:30～15:00	顕微鏡で海藻を観察しよう	顕微鏡を使って、海藻の体のつくりなどを観察します。	15	一般
H16. 5. 8(土)	13:30～15:30	ウミウシを調べよう	同日に行った観察会で採集した種類を中心に、ウミウシの体のつくりを観察します。観察会「ウミウシを探そう」と同時にお申し込みください。	20	小学校高学年以上
H16. 6.19(土)	13:00～15:00	親子で魚拓を作ってみよう	親子で魚拓作りにチャレンジします。	20	小学生(保護者同伴)
H16. 7.31(土)	12:30～14:30	親子で磯の生きものを観察しよう	同日に行った観察会で見つけた生きものの体のつくりなどを調べます。観察会「親子で海の生きものを探そう」と同時にお申し込みください。	20	小学生(保護者同伴)
H16.11.13(土)	13:30～15:30	海辺の野鳥	海の博物館周辺の海辺で見られる野鳥の分類や生態について解説します。	20	中学生以上
H16.11.27(土)	13:30～15:30	ちょっと変わった魚の繁殖行動	魚の面白い子育てのようすをスライドやビデオを使って紹介します。	20	中学生以上
H16.12.12(日)	10:00～12:00	ダイバーのためのハゼ講座	釣り人やダイバーに馴染みの深いハゼの仲間についてさまざまな話題を紹介いたします。	15	高校生以上
H16.12.12(日)	13:00～15:00	ダイバーのための甲殻類講座	ダイバーに人気のあるエビやカニをスライドやビデオを使って紹介します。	15	一般
H17. 1.22(土)	10:00～12:00	クジラの雑学講座	クジラに関する動物学や水産学、民俗的な話題を紹介いたします。	15	高校生以上
H17. 3.12(土)	13:30～15:30	海鳥	海の博物館周辺の海辺で見られる野鳥の分類や生態について解説します。	20	中学生以上

ー2ー 観察会

実施予定日	予定時間	タイトル	内容	題(名)	対象
H16. 4.11(日)	13:00～15:00	親子で磯の生きものを探そう 入門編	潮のひいた磯へ出て、生きものの見つけ方などを紹介します。	20	小学生(保護者同伴)
H16. 5. 8(土)	10:30～12:30	ウミウシを探そう	海の博物館前の磯でウミウシを探して観察します。引き続き講座「ウミウシを調べよう」を開催します。講座と同時にお申し込みください。	20	小学校高学年以上
H16. 5.16(日)	10:00～15:00	鵜原理想郷 春の植物	鵜原理想郷で春に見られる植物を観察します。	35	中学生以上
H16. 6.27(日)	10:00～15:00	鵜原理想郷 夏の植物	鵜原理想郷で夏に見られる植物を観察します。	35	中学生以上
H16. 7. 3(土)	10:00～12:00	勝浦のエビ・ヤドカリ・カニ	海の博物館前の磯でエビやカニを探して観察します。	20	高校生以上
H16. 7.18(日)	10:00～12:00	流れ藻につく稚魚を見よう	漁船に乗って勝浦市沖に漂流している流れ藻につく稚魚を観察します。	5	高校生以上
H16. 7.25(日)	9:30～12:30	水中メガネで海の生きものを観察しよう	水中メガネをつけて、海の中の生きものを観察します。	20	小学生(保護者同伴)
H16. 7.31(土)	9:30～11:30	親子で磯の生きものを探そう	潮のひいた磯にどんな生きものが隠れているか、探します。引き続き講座「親子で磯の生きものを観察しよう」を開催します。講座と同時にお申し込みください。	20	小学生(保護者同伴)
H16. 8. 1(日)	10:00～12:00	砂浜の魚を観察しよう	海の博物館周辺の砂浜で魚を探し、観察します。	15	高校生以上
H16. 8. 8(日)	10:00～12:00	親子で磯の小魚を探そう	潮のひいた磯で見られる魚を観察します。	20	小学校高学年以上
H16.10. 3(日)	10:00～15:00	海の生きものの化石を探そう	県内の山間部において、さまざまな海の生きものの化石を観察します。	20	小学校高学年以上
H16.11. 7(日)	10:00～15:00	鵜原理想郷 秋の植物	鵜原理想郷で秋に見られる植物を観察します。	20	中学生以上
H16.11.13(土)	9:30～12:30	船に乗って海鳥を観察しよう1	漁船に乗って博物館周辺の海上で見られる海鳥を観察します。	9	中学生以上
H17. 2. 6(日)	10:00～15:00	鵜原理想郷 冬の植物	鵜原理想郷で冬に見られる植物を観察します。	20	中学生以上
H17. 3.12(土)	9:30～12:30	船に乗って海鳥を観察しよう2	漁船に乗って博物館周辺の海上で見られる海鳥を観察します。	20	中学生以上
H17. 3.13(日)	11:00～13:30	食べられる海藻を探そう	海の博物館前の磯で食用となる海藻を探して観察します。	20	高校生以上

ー3ー フィールドトリップ

実施予定日	予定時間	タイトル
H16. 4.10(土)	13:00~14:00	磯の生きものを観察しよう1
H16. 4.24(土)	13:00~14:00	磯の生きものを観察しよう2
H16. 5. 4(火)	9:30~10:30	磯の生きものを観察しよう3
H16. 5. 9(日)	13:00~14:00	磯の生きものを観察しよう4
H16. 5.22(土)	11:30~12:30	磯の生きものを観察しよう5
H16. 5.23(日)	12:30~13:30	磯の生きものを観察しよう6
H16. 6. 5(土)	11:00~12:00	磯の生きものを観察しよう7
H16. 7. 3(土)	11:00~12:00	磯の生きものを観察しよう8
H16. 7. 4(日)	11:00~12:00	磯の生きものを観察しよう9
H16. 7.17(土)	10:00~11:00	磯の生きものを観察しよう10
H16. 7.30(金)	9:15~10:15	磯の生きものを観察しよう11
H16. 8. 1(日)	10:30~11:00	磯の生きものを観察しよう12
H16. 8. 1(日)	11:30~12:00	磯の生きものを観察しよう13
H16. 8.28(土)	9:15~10:15	磯の生きものを観察しよう14
H16. 8.29(日)	10:00~11:00	磯の生きものを観察しよう15
H16.11.12(金)	14:00~15:00	博物館周辺の鳥を観察しよう1
H17. 3.11(金)	14:00~15:00	博物館周辺の鳥を観察しよう2
H17. 3.27(日)	11:00~12:00	磯の生きものを観察しよう16

ー4ー バックヤードツアー

実施予定日	予定時間	タイトル
H16.10.30(日)	13:00~13:30	バックヤードツアー1
H17. 1.30(日)	13:00~13:30	バックヤードツアー2
H17. 2.20(日)	13:00~13:30	バックヤードツアー3
H17. 3. 6(日)	13:00~13:30	バックヤードツアー4

3. 海の環境学習研修会

海辺での校外学習を計画・担当する教諭のための研修会です。平成16年度は、いずれも千葉県総合教育センターとの共催で8月2日（基礎編）、8月3日（応用編）、8月25日（発展編）に行います。参加者の募集は、千葉県総合教育センターで行います。

有料化のお知らせ

千葉県では、平成14年10月に「千葉県財政再建プラン」を策定し、適正な受益者負担を求める観点から、すべての使用料・手数料の見直しを行うとともに、無料施設については、有料化を検討することとしました。その結果、条例改正によって、県立美術館・博物館の入場料及び県立現代産業科学館駐車場使用料を、平成16年4月1日から有料化することになりました。有料化について御理解の上、ご協力くださるようお願いいたします。

千葉県立中央博物館 分館海の博物館入場料

一般…200円 高校生・大学生…100円

入場料無料 (1) 中学生以下の方 (2) 65歳以上の方 (3) 身体障害者手帳、精神障害者保険福祉手帳、療育手帳をお持ちの方（手帳提示）とその介護者。

*団体割引はありません。

職員から



開館して5年目を迎え、多くの学校に利用していただける博物館になって来ました。調査研究、資料収集活動も成果が上がって来ました。今後も学校との連携活動を進め、観光地にある博物館としても多くの来館者に海を理解していただける博物館を目指します。(堀江)

博物館勤務1年目。サービス業務の難しさを痛感しております。予算のない昨今、いかにして知恵を出すかにかかっています。(吉村)

平成15年7月5日で、入館者100万人を達成しました。開館5年目でのスピード達成です。今後も入館者150万人、200万人を目指して職員一同がんばります。(近藤)

海の博物館に来て、早いもので3年が過ぎようとしています。毎朝会う、かわいい猫と小学生にもやっと顔を覚えてもらえたようです。来年度は有料化という大きな波がやってきますが、頑張って乗り切ろうと思います。(三平)

3月12日で、海の博物館がオープンして5年を経過しました。準備室時代を含め、私が海の博物館と係わって、約10年が経過した訳です。この間、様々なことがありましたが、無事ここまで到達したことに感慨一入です。(乃一)

開館5年が経過し、千葉県沿岸ほんの一部ですが磯魚の顔ぶれがわかるようになりました。年によって出現する時期や種類も変わりますが、南方のものが多くようです。分布記録を新たに更新した種類の多さに、収集調査の重要性を感じています。(藍澤)

3カ年にわたり行った伊豆大島での資料収集では、現地の関係機関の皆様にもさまざまなご協力・ご配慮をいただき、無事計画を終了することができました。ありがとうございました！(立川)

今年度はマリンサイエンスギャラリーの企画・準備やオーストラリアへの出張など、たいへん忙しい一年でした。ご協力いただいたみなさんに感謝しています。(川瀬)

海の博物館には、準備室で5年、開館してから5年の合計10年間お世話になりました。まだまだ、「ここでやりたかったこと」はたくさんありますが、「ここでできたこと」に対して深く感謝しています。博物館をとってお世話になったみなさま、どうもありがとうございました。(高山)

4月からの博物館有料化に負けないように、活動していきたいと思っています。(菊地)

房総半島の海の生きものの顔ぶれについては、開館以降5年間の調査を経てだいぶ理解が深まってきました。フィールドのすぐそばで活動できる大切さを実感しています。(奥野)

博物館法では県立博物館の入館料は無料が原則であり、県の財政難を受けた来年度からの有料化は残念でなりません。興味をお持ちでない方も含め、より多くの方々に自然誌の魅力を伝えていくには、相当な努力が必要だと感じています。(柳)

来年度からは博物館有料化に加えて人員減と、また大変になりそうである事やら。(村田)

12月に初めて防犯訓練が行われました。誘導のしかたが防災訓練とは全然ちがうので(あたりまえ!)、色々大変でした。願わくば、本当にお客様を誘導する機会が訪れませぬように。(高橋)

先日、些細なことで顎を痛めてしまいました。軟らかいものばかり食べている現代人の顎が脆弱化しているというのはどうやら本当のようです。受付飾り棚に置いてあるアオザメの立派な顎に羨望の眼差しを向けてしまう今日この頃です。(高梨)

職員の移動

平成16年3月31日

高山順子(研究員)転出

(千葉県立安房博物館)

ご利用の案内

開館時間 午前9時～午後4時30分

休館日 毎週月曜日(ただし、月曜日が休日にあたるときはその翌日、8月は無休)、年末年始(12月26日～1月1日)、その他の臨時休館日。繁忙期は臨時開館の場合あり。

入場料 無料(平成16年4月1日より有料となります)

駐車場 午前8時30分～午後5時15分(有料)

交通 JR外房線 鶴原駅から徒歩15分

勝浦駅からタクシーで約10分

勝浦駅から小湊鉄道バス「興津経由松野」行き「吉尾入口」下車、徒歩12分

勝浦駅から小湊鉄道バス「海中公園・海の博物館」行き下車すぐ(土・日曜日、祝日のみ)

自動車 千葉市からR16、R297、R128を使って約2時間

東京湾アクアラインから館山自動車道、R409、R297、R128を使って約1時間半

館山市からR128を使って約1時間半

銚子市からR126、R128を使って約3時間

平成15年度千葉県立中央博物館 分館海の博物館ニュースレター「いそび通信」No. 5 平成16年3月31日発行

編集・発行 千葉県立中央博物館 分館海の博物館 〒299-5242 千葉県勝浦市吉尾123

電話 0470-76-1133 FAX 0470-76-1821 e-mail: umihaku@chiba-muse.or.jp

URL <http://www.chiba-muse.or.jp/UMIHAKU/index.htm>